

平成 27 年度第 1 回弘前市吉野町煉瓦倉庫・緑地整備検討委員会 議事録

日時	2015 年 8 月 24 日（月）10:00-12:00
場所	弘前市役所 会議室
出席者	委員：秋元昭男様、北原啓司様、村谷要様（代理）、澤田栞奈様、白戸大吾様、中瀬康志様、三上雅通様、三上隆博様 弘前市：葛西市長 浅利都市環境部長 盛ひろさき魅力プロデュース室長、菅野補佐、高屋、工藤 富永謙建築設計事務所（T A）：富永 日本総研：前田、山崎（記）
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第（弘前市）</li> <li>・ 弘前市吉野町煉瓦倉庫・緑地整備検討委員会運営規則（弘前市）</li> <li>・ 委員メッセージ（弘前市）</li> <li>・ 第一回吉野町煉瓦倉庫・緑地整備検討委員会委員会資料（弘前市・日本総研）</li> </ul>

## 1. 議事概要

### （1）市長挨拶

- ・ こどもたちが胸を張って夢を語り合える場が必要であり、奈良美智氏の展覧会で 15 万人もの集客を実現した当煉瓦倉庫はそれにふさわしい場である。
- ・ 一流の芸術に触れられる美術館として整備したい。
- ・ 市民と観光客を呼ぶ賑わい創出の拠点として整備するとともに、土手町、鍛冶町への回遊の拠点としたい。
- ・ 世界に羽ばたく人材を輩出する、世界につながる美術館を目指す。

### （2）委員長挨拶

- ・ どんなよい建物も使わないと単なる空間になる。煉瓦倉庫のよい「空間」を、元気な活動や市民の思いが詰まったまちの活性化につながる「場所」に変えていけるようにしていく必要がある。

### （3）会議

- ・ （委員）委員会に出るまでは展示が主の施設となると思っていたが、それ以外の機能も検討に含まれていることを理解した。市が煉瓦倉庫を購入したということは、歴史的建造物を活用する方針があるものと理解する。したがって、この建物も含めたアートの発信が出来るとうい。そのためには構造補強が課題となるが、折角のよい空間を活かす方法を考えていきたい。
  - （議長）建物自体の魅力を活かす方法を考える必要がある。構造的な課題については、二階は 100 人以上が乗ると危険であり、本格的に利用するには鉄骨の補強が

必要との見解が奈良氏の展覧会の際にあった。

- ・(委員) 任期は審議の終了までとあるが、いつまでに、どこにゴールをもっていけばよいのか。
  - (事務局) 今年度いっばいで機能計画、事業概要をまとめたい。そこで一区切りして一定の成果を出す、その後も、都度アドバイスをいただきたい。
  
- ・(委員) 金沢市民芸術村については、彫刻祭を金沢で開催する際に芸術村も使っている。金沢にも多くの煉瓦倉庫があるが、うまく活用できているものばかりではない。昨日敷地を視察したが、地形のアップダウン、周辺の建物による囲まれ方が面白いと感じた。金沢 21 世紀美術館は周辺を引き込む蟻地獄のような場所だと思っている。弘前でも周辺には空地や空き家がある。周辺の環境、空地や空き店舗などとの連携を考えられないか。金沢では空き家を借りてアーティストインレジデンスに取り組んでいる。点が線で結びつくような取組、その地域に滞在してそこで何かを見出していくような、そんな場所を目指したい。
  - (議長) まち全体を相手にしていくような話をしないと意味が無い、という重要なお意見である。
  
- ・(委員) 煉瓦倉庫の外観を活かす必要がある。丸の内にある煉瓦の美術館（三菱一号館美術館）と、その前に整備されているガーデン（ブリックスクエア）が非常によい空間であった。
  
- ・(委員) 展示だけの美術館だと何度も行くような場所にはならない。市民が何度も行きたくなるような場所、常に新しい何かをやっている場所になるとよい。そのためには市民の活動・交流機能が非常に重要だと思う。また民間商業についてはブックカフェがよい。現在の図書館では飲食ができないが、飲み物を飲みながら本を読めるような場所があるとよい。また弘前は夜遅くまで開いているお店が少ない。夜遅くまで施設が開いていると魅力的である。
  - (議長) 夜の魅力の作り方は考えるべきである。
  
- ・(委員) 場所、もの、ことがら、を考えることが非常に重要。現在でも、ものは工芸品やその他、食はりんご等、ことがらもイベントが開催されている。もの、食、プレイといった弘前の魅力はすでにある程度整理されているので、それらを再度整理したら、この施設に必要なものが見えてくると思う。市内に既にあるものや施設との連携を考えて、本施設を位置づけてほしい。
  - (議長) 周辺施設との連携が必要である。
  - (委員) ミラノサローネのように、街中の様々な施設が連携してまちの魅力をつくりだしている状態がよい。

- ・ (委員) 地元も本事業には非常に期待している。
  - (委員) この事業を進めると、市民だけではなく、観光客など様々な人が訪れる場所になる。その中でも地域の人たちにとっては、いままで通り、入りやすい場所とすることが重要。
- ・ (委員) メモリアルドッグは県立美術館の彫刻とペアであるが、県立美術館では大切に扱われているのに対して弘前では野良犬のような扱いである。本施設が美術館として展示機能をもつとしたら、メモリアルドッグをどう施設とマッチングしていくかを気にしている。
  - (議長) 十和田の屋外展示も、メモリアルドッグも、屋外に展示していても落書きされたり破壊されたりしないことに驚かれることがある。東北の市民性だと思う。
- ・ (委員) 以前市から委託を受けた際は、従来の美術館ではない、というのが最終的なコンセプトであった。ワークショップの際に、小学生から「この場所はものをつくっていく場所だ」という意見があった。その中で、作っていく場は重要、しかしここだけではない、という問題意識があり、それがギャラリーネットワークの取組につながった。アートを起爆剤に周りにつながっていく場とすることが夢。
- ・ とりあえずなんでもある、という施設、ニュートラルな施設ではだめで、しっかり特徴をもった施設とすることが重要。決して軸の真ん中の位置づけではない。
- ・ (議長) 十和田現代美術館については、美術館自体は右上(展示主体、美術主体)だが、商店街との連携イベントは左下(クロスジャンル、制作・イベント主体)であり、そのセットでやっている。金沢市民芸術村は市民型の運営を心がけるということでやっていた。当初は24時間営業を想定しており、これは画期的であった。また金沢市民芸術村はディレクタ制をとっているが、ミュージック部門のディレクタは地元の楽器屋さんで、夜にバンドの練習をしている若者にアドバイスなどしている。そういった運営のイメージも委員会で考えていきたい。
- ・ 歩行者の空間としてどのようにネットワークしていくかを、市の都市計画全体として考える必要がある。都市計画道路の話もどう考えていくか。
- ・ 何を発信するか、を言えないといけない。他の委員のメッセージにあるように、新たな文化の発信地、というくらいの状態で、まずはやってみようというぐらいのスタンスでもよいかもしれない。誰に対して発信をするのか、観光客だけでなく、市民に対しての発信という視点も入れないといけない。
- ・ 本日のまとめとして、周辺施設や空き家など、施設の外とどのように繋がるか、という問題提起がなされた。そういった視点も併せて今後検討を進めてほしい。